

第3回養徳学舎活用検討会 議事概要

- (1) 日時：令和7年2月28日（金）13時00分～14時00分
- (2) 場所：奈良県東京事務所又はWeb参加
- (3) 出席者：○養徳学舎活用検討会委員
朝倉 祐介（Web参加）、植嶋 平治、中山 満子（Web参加）、
原田 遼太郎、藤村 聡、安本 直史（五十音順・敬称略）
○奈良県
箕輪東京事務所長
事務局（奈良県東京事務所）
- (4) 概要

1 開会

【会議の公開・非公開の別】

事務局による資料説明までは公開とし、それ以降は非公開とすることを了承

【資料説明】

事務局より、第3回養徳学舎活用検討会資料に沿って説明

【議事録等の作成】

会議の概要を作成することを決定

2 議題

【活用案への意見聴取】

①機能強化について

- ・地域愛をより醸成するひとつのアイデアとして、養徳学舎の寮生を、奈良と東京の架け橋になってもらえるように、奈良県のアンバサダーのような位置づけにすると、より奈良県から来ているという意識が強まると思う。
- ・多様性を育むという意味では、奈良の人だけで固まっているのはもったいないと思うので、例えば、他府県の学生や留学生との交流の場もあれば良いと思う。
- ・企業版ふるさと納税を活用して、企業に養徳学舎を応援してもらえるようにしたり、寮生が起業するときに、本社登記を養徳学舎の住所で認める代わりに、後々何らかの形で養徳学舎に還元してもらおうといった仕組みを取り入れても良いのではと思う。
- ・コワーキングスペースについて、利用してかつ必ず寮生と交流をしようと思うと難しいので、寮生との交流を主の目的とするのではなく、こういう寮があるということを知ってもらったり、奈良に関する文献を置いて奈良のことを奈良の人により知ってもらおうというところに目的を置いた方が良いと思う。

- ・県人会では、毎月か隔月でオンラインにより、事業をやっている奈良県出身者の方にスピーカーになってもらうサロンを開催できればと思っている。県人会には色々な場所で活躍されている方がいるので、寮生が参加して話を聞いてもらうことで、今後の進路の参考にしていただければと考えている。
- ・リアルな活動では、他の町で行っているまちづくりの活動を参考に、養徳学舎において寮生たちにプレゼンテーションをしてもらうようなことができればと考えている。県人会が起爆剤となって寮生に仕掛けていければと思う。

②女子学生の受け入れについて

- ・男子学生寮の良さを残すとあるが現実的に無理ではないかと感じる。女子学生も受け入れて男女共同の場にするのであれば、新しい寮を作っていくという心持ちで生活の場を作る方がより前向きな議論になると思う。
- ・女子学生も受け入れするなら、女子学生を受け入れることを公開した上で、最初からサポートできる範囲を示して、その上で、居住に合意した人に入ってもらうようにすることも重要。全ての人の要望に対応することは難しい。
- ・(生活する上でやむを得ないこともあるので) 共同生活に対する合意は一定必要。後から色々要望を言われて対応が困難になることもあり、どこまで対応できるのかは整理が必要。
- ・部屋ごとのセキュリティがしっかりしていれば居住エリアは分ける必要はないと思う。男女共用寮を作ることを考えた時に、それならそれぞれ別の男子寮、女子寮でいいのではという話になる気がする。ジェンダー意識や多様なコミュニケーションを考えた場合、なるべく性別や学年が混合された中で暮らせるようにするのが良いと思う。
- ・新しい養徳学舎の形を打ち出して行く上で、在寮生に対して、方針が変わることに伴って継続的に居住の意思があるのかという意思確認などの事前のコミュニケーションが重要だと思う。
- ・メンタルサポートについては、一つの寮の個別の問題ではないので、寮監の横の繋がりを活かし、共通のメンタルサポートの人に、月一回来てもらおうといったように、奈良県だけで抱えるのではなく他の寮とも協力して取り組めば効率的になると思う。
- ・男子寮、共学寮それぞれの良さがあると思う。住む人が変わってくると、何に対して魅力を感じるかということも変わってくると思うので、ずっと男子寮を維持し続ける必要は特段ないと思う。こだわる人がいる場合は、去っていただくというのも一つのやり方だと思う。学生寮なので年数が経てばそういった方の割合も減っていき新しい魅力を感じる方だけが残っていくと思う。

③その他

- ・寮の空室解消について、3月の遅い時期に追加募集や補欠合格をしても、学生が他住居を決めていて、空室が埋まらないと聞く。その場合の、他住居の違約金を補助するといった形で、空室を解消する工夫は考えられると思う。
- ・現在も行っている学生による設備の維持管理等は継続してもらいたいと思う。また、活用案に運営スタッフについて記述があるが、外部の業者の方に担ってもらいイメージではなく、やはり安全面での運営スタッフは、寮生の生活の中において違和感がない近い存在のほうが寮生にも受け入れられやすいと思う。
- ・交流という面でも、寮生主体で企画する地域との交流イベント等については継続してやってもらいたいと思う。その中で、奈良県の発信をしていくアンバサダーのような役割を持たせて意識付けできると良いと思う。
- ・ウェイティングリストという形を導入するのも空室解消に繋がると思う。